

学務系職員のための学生理解・支援

野口 悟（高知大学医学部・病院事務部総務企画課地域医療支援室 室長）

講師略歴

平成15年4月高知大学事務職員に採用。これまで、高知大学及び国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家で勤務。高知大学では情報推進・研究推進関係部署に加え医学部学生課で勤務し、医学部学生課勤務が通算して12年を超える。令和7年4月から現職。平成23～24年度に現在の次世代リーダー養成ゼミナールを受講・修了。平成24年度科学研究費補助金（奨励研究）採択。令和3年3月 SPOD-SDC 資格認定。

プログラム概要

多様性社会といわれている中で育ってきている学生は様々な特性を持っています。年代が離れるほど世代間ギャップを感じる方が多いかと思えますし、近年の若者について、コスパ・タイパ重視、デジタルネイティブ（SNS）なZ世代と称することもあります。このような中、高等教育においてもパワハラ・アカハラ、発達障害やSOGIなど合理的配慮、コロナ禍以降はオンライン授業についていけない学生サポートなども含め、教育環境の整備が求められています。本プログラムでは、多様な学生を少しでも理解していただいたうえで、学生に身近な職員として学生の支援のヒントを得ていただくことを目的としています。学生と直接接点のある学務系の職員であれば遭遇しそうな「事例あるある」を“共有できる範囲で”共有するディスカッションやグループワークに時間をできるだけ多く取りたいと考えています。

準備物・事前課題

<課題1>大学職員として仕事をする中で遭遇した学生に関する問題、困りごと、困難な事例（解決していれば解決方法も含め）があれば用意しておいてください（個人が特定されないように注意）。事例をお持ちでなければ、周辺の職員にインタビューして可能な範囲で情報収集してみてください。
<課題2>独自のケースを事前配付しますので各自読み込んで、自身の経験も踏まえあらかじめ考えてから研修に参加してください。

主な受講対象者

・教務担当、学生支援担当職員

到達目標

1. 最近の若者の一般的な特徴を理解できる。
2. 一人で悩まず課題解決の方法を仲間で話し合うことができる。
3. 他機関の職員と情報交換し、仲間を作ることができる。